

# ワーキンググループリーダーの先生方へのインタビュー ～研究開発学校の研究に取り組んでみて～

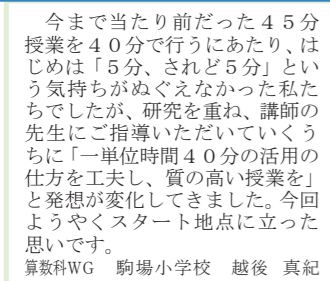
Q 本研究の取組が、授業力向上にどのようにつながりましたか？



国語科では、丁寧に教材を読み深める中での単元デザインが重要です。授業では、ねらいに迫るための発問、学習活動、導入やまとめ等の工夫、既習事項を効果的に生かすこと、そして授業時間を60分、80分にするなど、柔軟な発想で授業をデザインすることも指導力の向上に繋がると思われます。  
国語科WG 向原小学校 横山 都美子



WGの取組をとおして、与えられた条件の中で最大限の力を発揮しようとする子どもたちの姿が見られました。限られた時間の中で、質の高い授業を実践することをおして見られた姿でした。40分の間に何かができるのかと考えることが重要ではないかと思っています。今後も「発見」「驚き」「感動」ある授業を目指していきたいです。  
社会科WG 大岡山小学校 鈴木 信貴



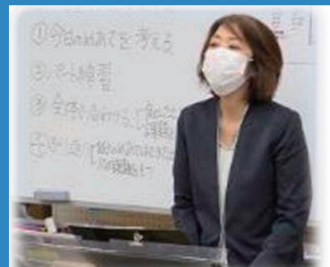
今まで当たり前だった45分授業を40分で行うにあたり、はじめは「5分、されど5分」という気持ちがぬぐえなかった私たちでしたが、研究を重ね、講師の先生にご指導いただいたいくうちに「一単位時間40分の活用の仕方を工夫し、質の高い授業を」と発想が変化してきました。今回ようやくスタート地点に立ったと思います。  
算数科WG 駒場小学校 越後 真紀



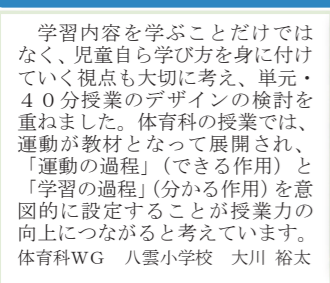
45分授業の5分を圧縮・削減した授業作りという考えではなく、単元全体のデザインをしていくことが重要になります。本研究により単元デザインのポイントが整理され、明確になりました。教材解釈を深め、児童の実態を考慮しながら育成したい資質・能力を明確にし、単元デザインを考えることは大きな価値があると考えます。  
理科WG 中目黒小学校 玉村 昌彦



製作が中心となる教科なので、「導入の視覚化」、「本時のめあての焦点化」、「鑑賞の日常化」など、児童の活動時間を十分に確保する指導の工夫をしました。短時間集中型の授業の実現を目指すことで、題材理解を深め、造形活動に関わる総合的な指導力の向上を図ることができました。  
図画工作科WG 向原小学校 小林 真理子



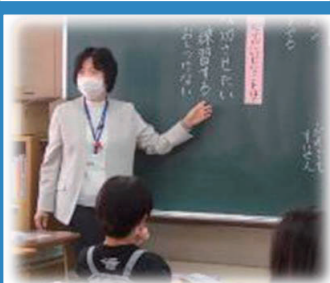
放課後の時間を研修や教材研究に充てることができました。効率的な時間の使い方や効果的な指導方法を考えることにつながりました。音楽科では個別指導をしたり、ワークシートを丁寧に点検したり、次の時間に個に応じた指導の工夫をするための時間があるのは、有益だと考えます。  
音楽科WG 中目黒小学校 田中 裕美



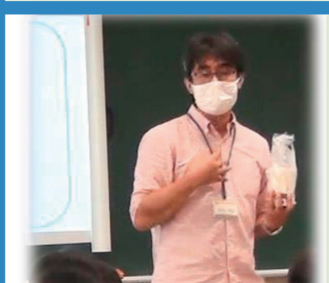
学習内容を学ぶことだけではなく、児童自ら学び方を身に付けていく視点も大切に考え、単元・40分授業のデザインの検討を重ねました。体育科の授業では、運動が教材となって展開され、「運動の過程」(できる作用)と「学習の過程」(分かる作用)を意図的に設定することが授業力の向上につながると考えています。  
体育科WG 八雲小学校 大川 裕太



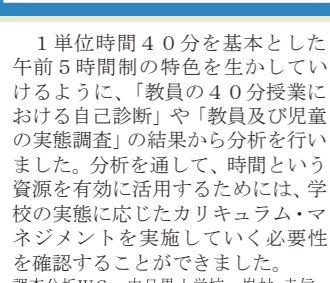
Small Talk では、既習表現を使ったやりとりだけでなく、会話を通して新出語句や表現と出会わせることで、自分の思いや考えなどを伝える力の向上につながっています。教員は、ALT との会話に児童を巻き込むなど、自然な場面の中で児童の習得を促すことを意識するようになってきています。  
外国語科WG 田道小学校 田島 晶子



道徳科の40分授業のポイントとして、本研究を通して導入と終末の時間と内容を工夫しています。子どもを惹き付ける導入、ねらいとする道徳の価値が高まる効果的な終末を短い時間に収めることで、展開の時間が確保できます。そのことが子どもの実態に合った指導観を大切にしたい、子どもも教師も楽しい道徳科の授業につながっていると思います。  
道徳科WG 烏森小学校 井上 正子



教育課程部会では、一単位時間40分授業によって生み出された時間がどのように活用されているかを、各学校の「学校ランドデザイン」から明らかにしてきました。各学校とも、校長のリーダーシップのもと、特色ある教育課程が編成され、授業の充実及び児童の学びや生活の質の向上が図られています。  
教育課程WG 下目黒小学校 水村 考良



1単位時間40分を基本とした午前5時間制の特色を生かしているように、「教員の40分授業における自己診断」や「教員及び児童の実態調査」の結果から分析を行いました。分析を通して、時間という資源を有効に活用するためには、学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントを実施していく必要性を確認することができました。  
調査分析WG 中目黒小学校 峯村 幸信



- 令和2年度 研究開発学校推進委員会
- |                  |        |        |
|------------------|--------|--------|
| 聖徳大学大学院教職研究科元教授  | 西村 佐二  | (委員長)  |
| 目黒区立駒場小学校長       | 北島 陽彦  | (副委員長) |
| 目黒区立中目黒小学校長      | 横溝 宇人  | (副委員長) |
| 目黒区立不動小学校長       | 小泉 修治  | (副委員長) |
| 目黒区立下目黒小学校長      | 秋山 美栄子 |        |
| 目黒区立油面小学校長       | 岩前 真利  |        |
| 目黒区立烏森小学校長       | 村尾 勝利  |        |
| 目黒区立向原小学校長       | 荘司 賢吾  |        |
| 目黒区立鷹番小学校長       | 丸山 智子  |        |
| 目黒区立田道小学校長       | 衣非 まさ子 |        |
| 目黒区立月光原小学校長      | 若林 研司  |        |
| 目黒区立原町小学校長       | 柏葉 清志  |        |
| 目黒区立上目黒小学校長      | 高橋 圭介  |        |
| 目黒区立中根小学校長       | 藤井 良江  |        |
| 目黒区立宮前小学校長       | 渡部 浩文  |        |
| 目黒区教育委員会事務局教育指導課 |        |        |

※目黒区立学校授業スペシャリストも本研究に取り組んでいます。

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度)

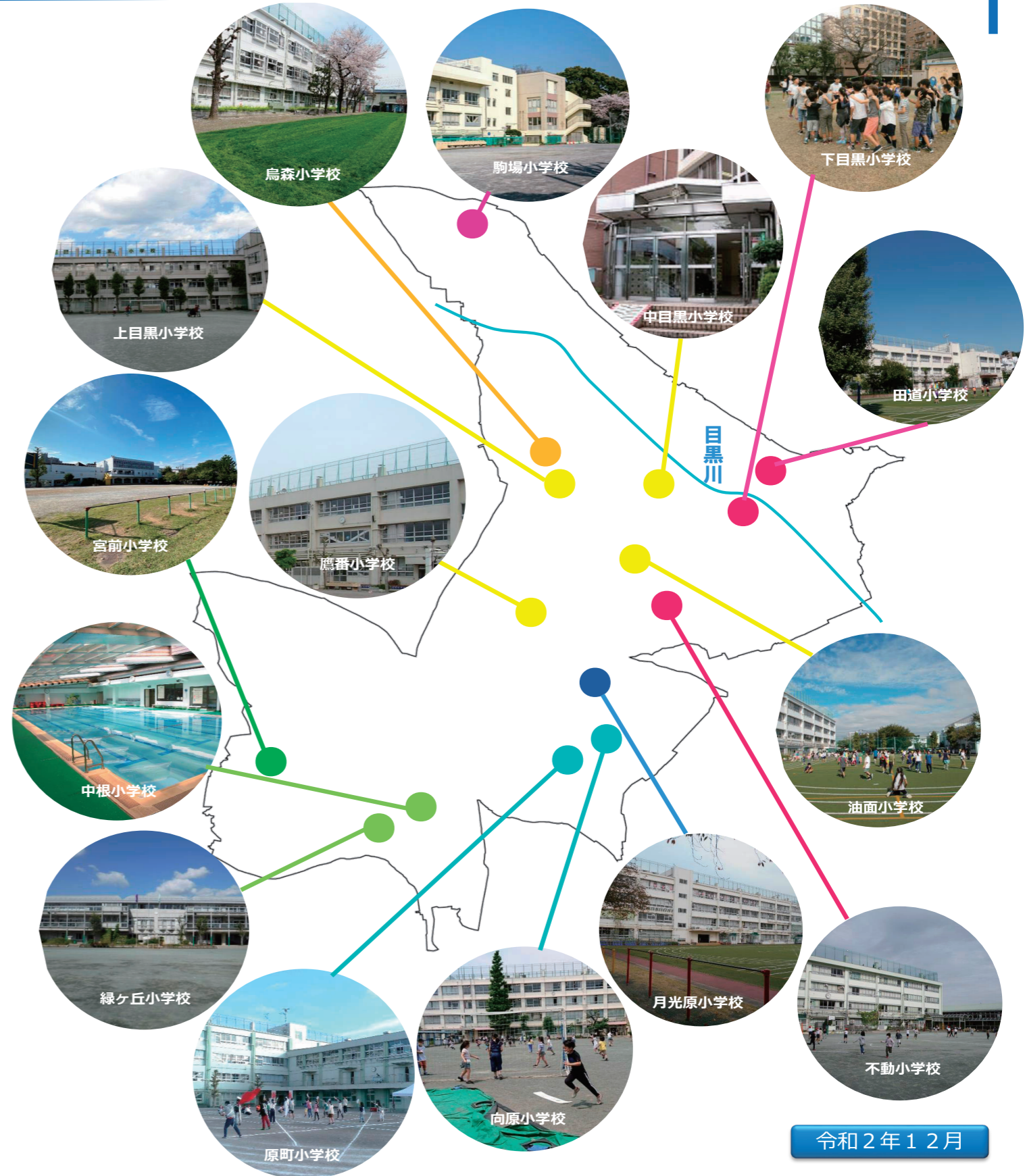
40分授業午前5時間制で

# 小学校を変える

目黒区発

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度) 「40分授業午前5時間制で小学校を変える」

目黒区教育委員会



令和2年12月

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度)  
「40分授業午前5時間制で小学校を変える」主要印刷物番号 2教-10号  
発行 目黒区教育委員会  
編集 目黒区教育委員会事務局教育指導課 (研究開発学校推進委員会)  
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15  
電話03-5722-9313 FAX03-3715-6951

はじめに

目黒区教育委員会教育長 関根 義孝

目黒区教育委員会では、平成14年度から一部の区立小学校で一単位時間を40分間とした午前5時間制を導入しています。また、平成19年度には二期制を、平成20年度には夏季休業期間の5日間の短縮を導入し、ゆとりある教育課程の中で魅力と活力にあふれ、信頼される学校づくりを進めています。

本区の午前5時間制導入校(15校)は、平成29・30年度の2年間、文部科学省による調査研究の委託を受け、「時間」という資源を効果的に活用する視点から「カリキュラム・マネジメントに関する研究」を行い、小学校外国語教育の教科化など今日的な課題を踏まえた「午前5時間制の有意性」を全国に発信してまいりました。

令和元年度からは、文部科学省「研究開発学校」に指定され、「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による学校の一時休業に伴う授業時数の確保が課題となる中、18年間の取組みで得られたノウハウを活かして、「40分授業午前5時間制」が実践され、効果を上げています。また、都外からの視察の依頼も多く、目黒区における研究開発は、全国から関心が寄せられているところです。

本冊子は、令和5年度まで続く研究開発の中間報告として、学校独自の特色ある教育課程の編成や9教科の単元デザインと40分の授業デザインのポイント等をまとめました。本研究開発を学校組織の活性化につなげ、児童の学びや学校生活の質の向上を目指す取組みの参考としていただければ幸いです。

## 目次

1	はじめに	1
2	目次	1
3	創意工夫ある教育課程の開発	2
4	目黒区の教育	3
5	目黒区 文部科学省研究開発学校	
	●研究開発グランドデザイン	5
	●40分授業午前5時間制を生かした学校独自の特色ある教育課程	7
	●40分授業午前5時間制 単元(題材・主題)デザインのポイント・40分の授業デザインのポイント	
	国語科 (第3・6学年)	11
	社会科 (第3・6学年)	15
	算数科 (第3・6学年)	19
	理科 (第3・6学年)	23
	音楽科 (第3・6学年)	27
	図画工作科 (第3・6学年)	31
	体育科 (第3・6学年)	35
	外国語活動・外国語科 (第3・6学年)	39
	特別の教科 道徳 (第3・6学年)	43
	●令和2年度 研究開発学校 授業力向上研修	47
	●教員の40分授業における自己診断/教員及び児童の実態調査/成果と課題等	49
	【参考】目黒区立小学校の40分授業午前5時間制	51
	ワーキンググループリーダーの先生方へのインタビュー	53



※研究開発学校：学習指導要領等の現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成・実施が認められ、その実践研究を通して新しい教育課程・指導方法を開発していこうとするもの。

「40分授業午前5時間制」を生かした

# 創意工夫ある教育課程の開発

児童の学びや生活の質の向上を図るために、

「40分授業午前5時間制」によって時間を生み出し、

学校独自の創意工夫ある教育活動等に生かしています。





## 「40分授業午前5時間制」で生み出した時間の活用

生み出した時間の例(第4学年以上)

①年間の標準授業時数1015単位時間、45(分) - 40(分) = 5(分)

②5(分) × 1015(単位時間) = **5,075分**



児童			教員	
<p>●教科等の指導の充実</p> <p>体験・交流活動や出前授業、地域の施設を活用した校外学習等、児童の興味・関心を広げたり、学習内容の充実を図ったりすることができま</p> <p>す。</p> 	<p>●個別指導の充実</p> <p>授業で分からなかったところや苦手な学習を先生に個別に教えてもらったり、学校生活について先生と話をしたりすることができま</p> <p>す。</p> 	<p>●自由時間の拡大</p> <p>放課後の時間を活用して、友達とランドセルひろば等で、たくさん体を動かして遊ぶことができます。放</p> <p>課後、習い事がある</p> <p>と児童や保護者からも好評で</p> <p>す。</p>	<p>●カリキュラム・マネジメントの観点</p> <p>生み出した時間の活用や教科等横断的な視点を踏まえた「単元指導計画」に基づき、40分授業を実施することで、児童の実態に合わせた学習内容の充実を図ることができま</p> <p>す。</p>	<p>●研修、学年会の充実</p> <p>放課後の時間を活用して、児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話し合いながら40分授業をつくり出していま</p> <p>す。</p>

研究開発学校では、「学校グランドデザイン」を策定しています。策定にあたっては、校長のリーダーシップのもと、全教職員が関わって協議し、共有しています。



# 目黒区の教育

目指す  
子ども像

2  
た  
人  
め

1世紀を  
くましく生きる  
間性豊かな  
ぐるの子ども

目指す  
学校像

魅力と  
活力にあふれ、  
信頼される学校

目指す  
教員像

専門性と  
協働性があり、  
信頼される教員

## ● 特色ある教育課程 ●

二期制の特色を生かした学校行事の実施等、教育活動を工夫し、創意にあふれた学校づくりを進めています。

- 二期制（前後期各100日程度）
- 学校完全週5日制
- 夏季休業日の短縮（5日間）
- 40分授業午前5時間制の推進（小学校）

### English 外国語教育

グローバル化する社会を生きる上で重要となる外国語（英語）によるコミュニケーション能力を育成するため、外国語教育の充実を図っています。

- ALT（外国語指導員）の年間を通じた派遣
- 「目黒区外国語教育モデルカリキュラム」の活用  
区独自のカリキュラムに基づいて、小学校第1・2学年15時間、第3・4学年35時間、外国語の学習を行います
- 英語4技能検定試験の実施  
中学校第2学年全生徒が、英語技能試験を受検します。
- 課外プログラム  
イングリッシュ・キャンプ（八ヶ岳林間学園）  
日帰り体験型英語学習（小学校第6学年全児童・中学校希望生徒）（TOKYO GLOBAL GATEWAY）

### Education 学力向上

区独自の学力調査の結果を活用し、指導方法の工夫や改善、繰り返し指導や補充的な学習指導等の充実を図ることを通じて、学力の向上を図っています。

- 区独自の学力調査  
（小学校2年～中学校3年）
- 「授業改善の手引き」・「新学習指導要領を踏まえた指導資料」（区独自資料）の活用  
区独自の手引きを用いて、授業改善に取り組んでいます。
- 放課後学習・土曜日の補習授業  
中学校では、生徒の学力の定着を図るために、学習指導員が放課後や定期考査前の土曜日に繰り返し指導や補充的な学習指導等を行っています。

### Cultural experience 文化的体験

優れた芸術文化に接したり、新しい文化の創造に寄与したりする機会の提供や他校との交流の場、自然の中での学習機会を設け、子どもたちの情操を涵養しています。

- 連合音楽会  
（小学校5年・中学校2年）
- 音楽鑑賞教室  
（小学校6年・中学校3年）
- 演劇鑑賞教室  
劇団四季の公演（小学校6年）
- 連合展覧会  
（幼稚園、こども園、小・中学校）
- 連合体育大会  
（中学校全学年）
- 自然宿泊体験教室  
（小学校4年～中学校1年）  
八ヶ岳林間学園  
（山梨県北杜市高根町清里）  
興津自然学園  
（千葉県勝浦市興津）

### Special needs 特別支援教育

児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服する教育を推進しています。

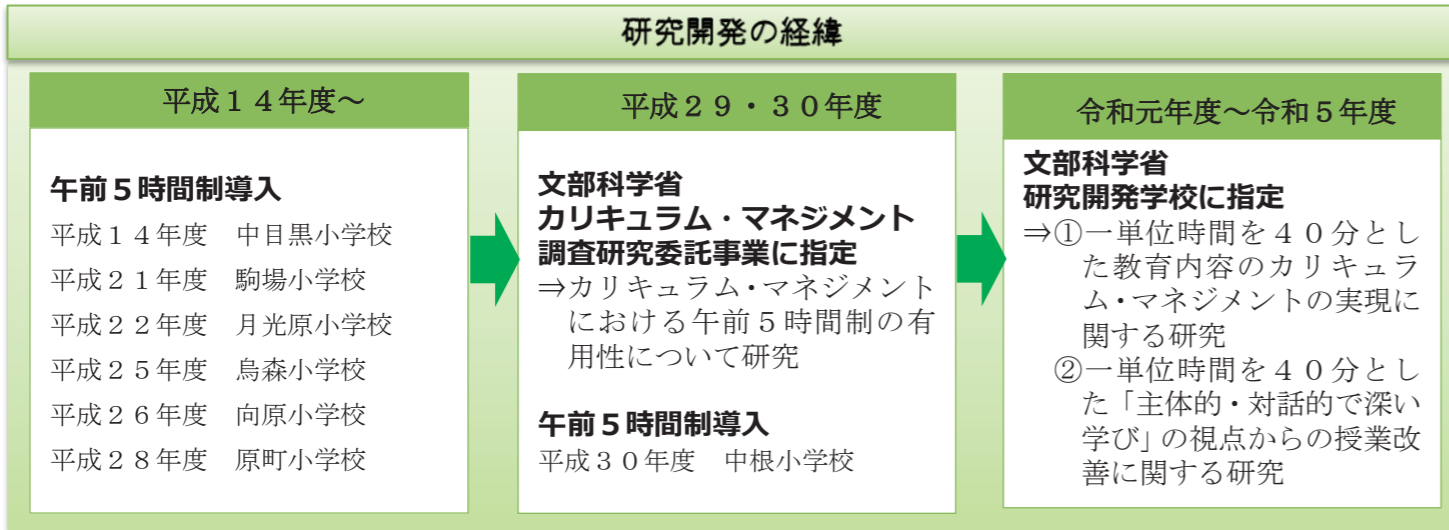
- 特別支援教室の全校配置  
全小・中学校に特別支援教室を設置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒の教育の充実を図っています。
- 特別支援教室専門員の全校配置
- 特別支援学級  
知的障害  
（小学校4校、中学校2校）  
肢体不自由（小・中学校1校）  
自閉症・情緒障害（中学校1校）  
難聴・言語障害通級指導学級  
（小学校1校）

## 「チーム学校」の推進

### 「目黒区働き方改革実行プログラム」 平成31年3月策定

- 学習指導員【区】  
小・中学校：国語科、算数科・数学科、外国語科（チーム・ティーチング）中学校では放課後等指導
- 学習指導講師【区】  
小学校：算数科等習熟度別指導、家庭科、体育科等
- 指導方法工夫改善  
加配【都】  
小学校：算数科習熟度別指導  
中学校：数学科・外国語科
- 観察実験支援員【区】  
小・中学校：理科の観察・実験の準備や片付けをサポート
- ICT支援員【区】  
小・中学校：ICTを活用した授業のサポート
- 副校長補佐【区】  
小・中学校：各種配布物・来客・電話対応などの副校長の業務補佐
- スクール・サポート・スタッフ【区】  
小・中学校：授業準備や採点業務の補助など教員の業務支援
- 学校図書館  
支援員【区】  
小・中学校：学校図書館運営や読書活動推進へのサポート
- スクールカウンセラー【区・都】  
スクールソーシャルワーカー【区】  
小・中学校：いじめや不登校の解決、発達障害や福祉等の援助・支援に対するアドバイス
- 特別支援教育  
支援員【区】  
小・中学校：通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒をサポート
- 小1学級支援員【区】  
小学校：第1学年の担任を補助（入学直後の児童支援）
- 健康トレーナー【区】  
小学校：肥満や体力不足等の健康課題のある児童にそれぞれの課題に応じた運動を指導
- 日本語指導員【区】  
小・中学校：早稲田大学大学院日本語教育研究科と協定
- 外部指導員【区】  
部活動指導員【区】  
中学校：各種目で専門性を有する外部人材が指導、部活動指導員は単独で指導・引率が可能

研究開発の経緯



研究開発課題

児童の学びや生活の質の向上を図るため、学校教育法施行規則第51条の規定によらず、一単位時間を40分とし、**創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。**

研究開発の概要

**● 40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発**

児童の学びや生活の質の向上を図るために、40分授業午前5時間制によって時間を生み出し、学校独自の創意工夫ある教育活動等に生かす。

**各教科等の指導方法**

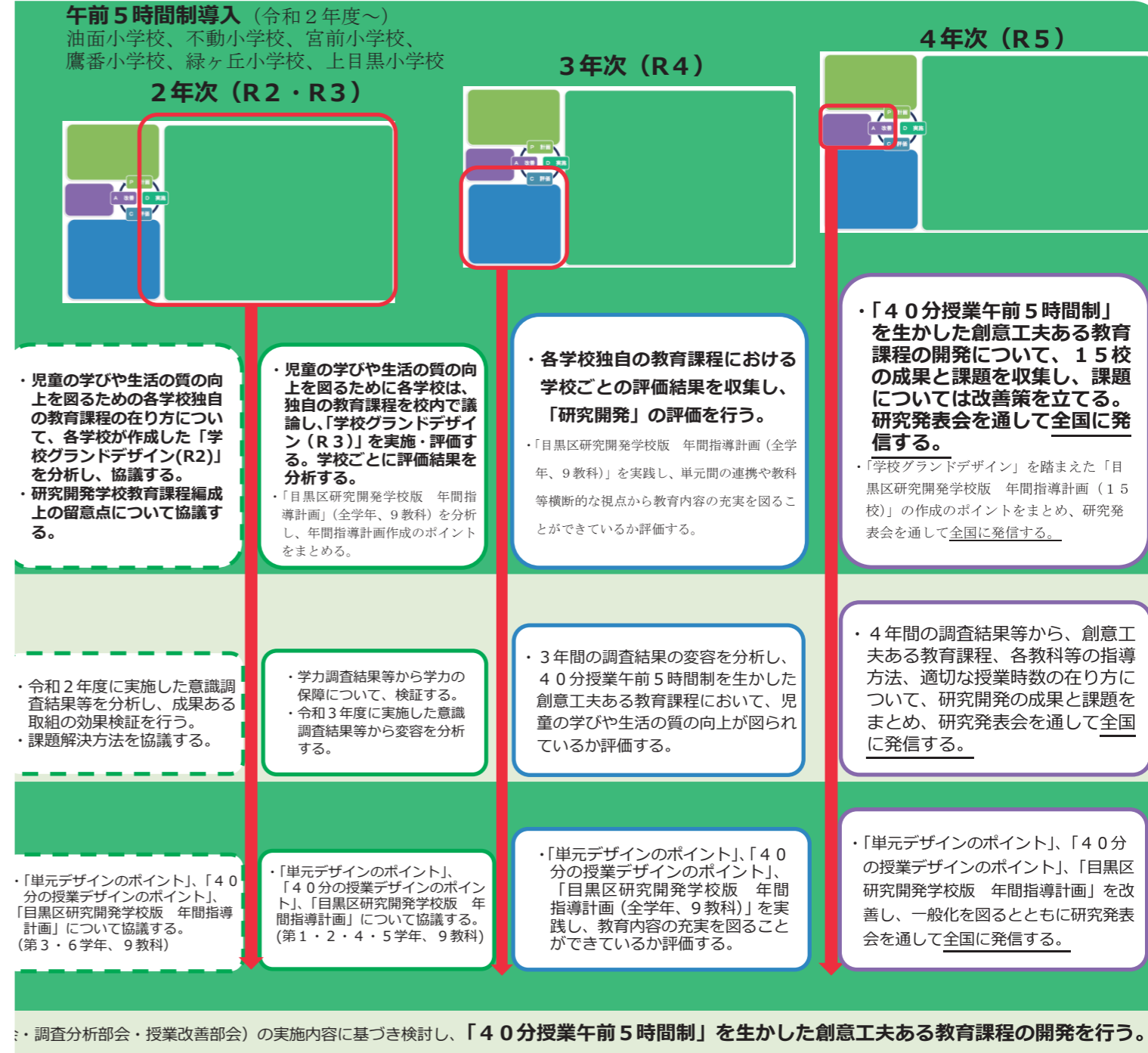
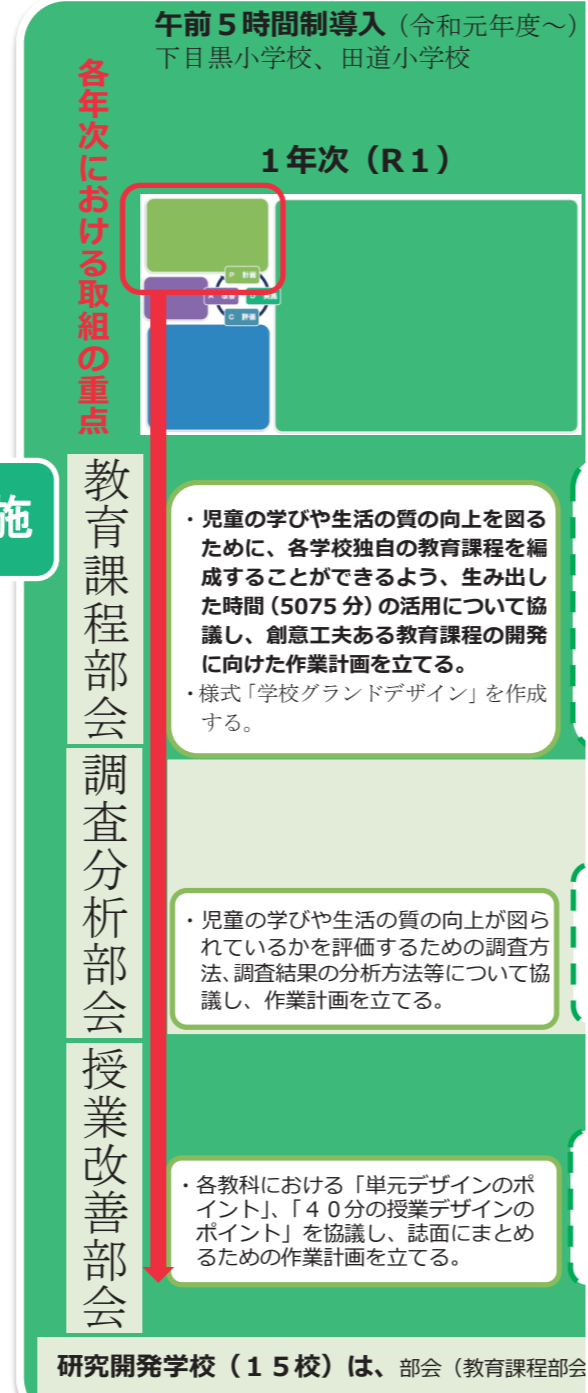
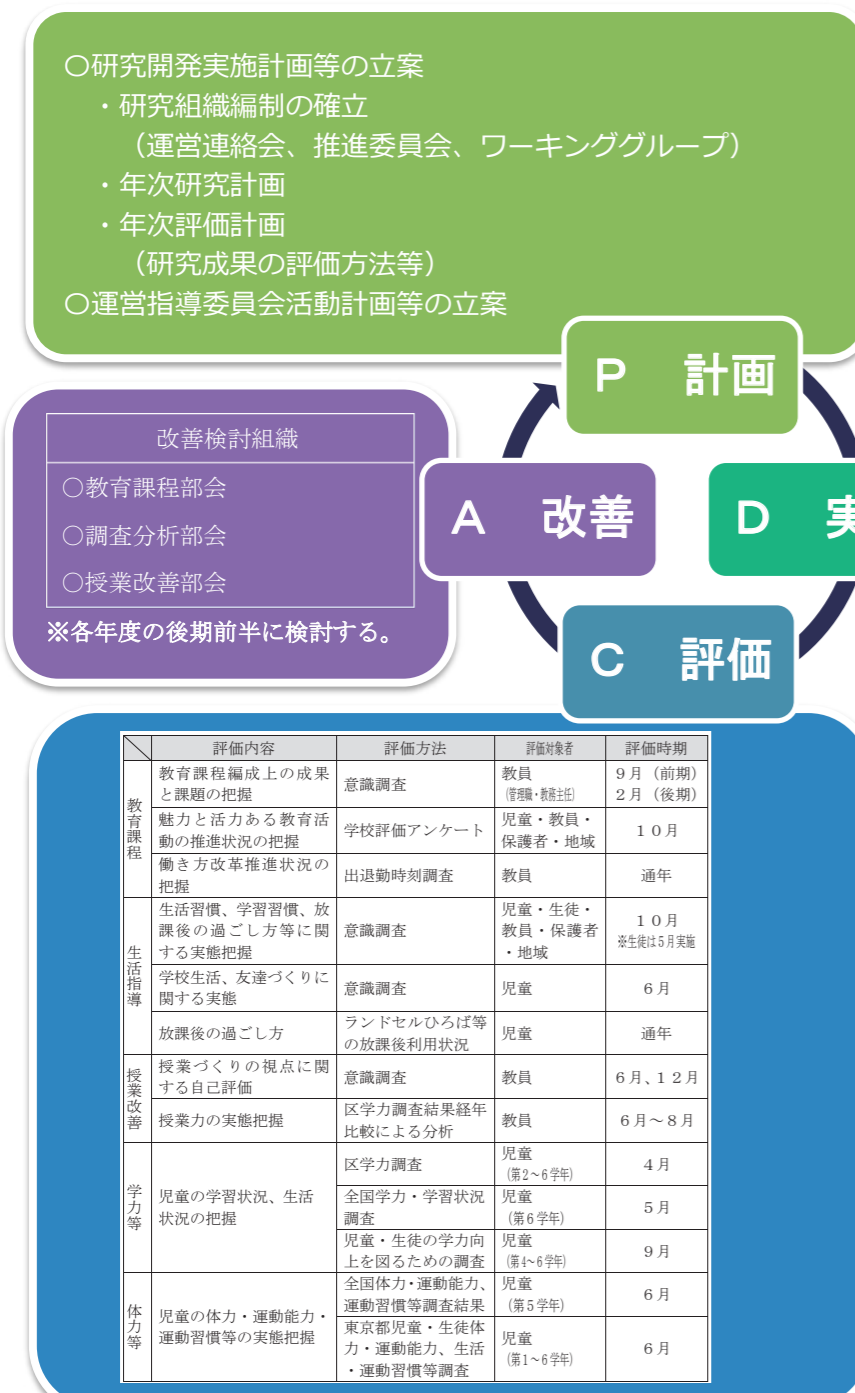
- ・単元デザイン
- ・40分授業デザイン

**適切な授業時数の在り方**

- ・教育内容の精選、重点化
- ・教育課程編成上の留意点

※「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程と、それを支える各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。

「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程 PDCA



# 40分授業午前5時間制を生かした 学校独自の特色ある教育課程

40分授業午前5時間制を導入すると、一単位時間45分実施に比べて時間を生み出すことができます。研究開発学校15校は、生み出した時間を活用して学校独自の特色ある教育課程を編成しています。各学校では、校長のリーダーシップのもと、全教職員が関わって協議し、「学校グランドデザイン」を策定しています。

**Research:各種調査等による実態**  
各種調査等から児童の実態、学校や地域の特性などを明らかにします。

**校長の学校経営方針**  
40分授業午前5時間制を生かした校長の学校経営ビジョンの共通理解を図ります。

**目指す児童像**  
「育成を目指す資質・能力」の3つの柱を踏まえ、具体的に書きます。

## 令和2年度 目黒区立田道小学校 学校グランドデザイン

**Research:各種調査等による実態**

- 【学校の実態】児童数382名、学級数13学級、教員数25名、教員平均年齢40.4歳
- 【児童の実態】<区学力調査>、<保護者>、<体力調査>、<地域>
- 【保護者・地域の実態】<保護者>、<地域>
- 【40分授業-授業診断結果】時間の管理やめあてを提示して見直しを促すことへの意識は高い。学習指導要領や単元デザインへの意識を高める必要がある。高学年は、児童自身が学び取る学習を取り入れる意識が高い。低学年は、教師が基礎基本を習得する指導を重視している。

**校長の経営方針**

- 40分授業午前5時間制を生かした経営ビジョン
- 生み出した時間で特色ある教育活動を充実させる。
- 田道の2枚看板「外国語教育」「環境保全活動」
- 児童も教師も時間を守る。
- 落ちついた学校生活(学習規律・生活規律の確立)
- 時間を生み出し、有効に活用する。
- 教育目標の具現化(知・徳・体のバランスのとれた育成)
- 児童の学び・特色の向上
- 友達、教師との関わりのある豊かな学校生活
- 教師の単元及び授業をデザインする力を高める。
- 校内研究を核とした学校全体の取組

**目指す児童像**

教育目標 よく考えて すんで 行う子【知】  
心ゆたかで 思いやりのある子【徳】  
健康で 最後までやり抜く子【体】【達成力】

田道共育目標<地域と学校が共に育みたい児童の姿>

- 思いやる心のある人
- 最後まであきらめぬ人
- 人とのつながりを大切に人

本校の外国語教育において目指す児童の姿

- 英語を用いて、生き生きとコミュニケーションができる子ども
- 学んだことを生かして伝え合おうとする子ども

## 40分授業午前5時間制を生かすPDCA

**年間指導計画**

- 40分授業により生み出した時間の活用(他教科との関連等)
- 単元の中心領域とその継続性の可視化
- 単元のゴールである目指す児童の姿を実現するために学習活動の継続、積み上げの軸が見える単元指導計画のデザイン
- 40分の時間の使い分けにより、児童が主体的に学ぶ時間や他教科との関連を回り学びを深める時間を創出。
- 目指す児童の姿を実現するための学習活動の継続・積み上げの軸がぶれない一貫性のある授業デザイン

**40分授業午前5時間制を生かす外国語教育の充実**

- 午前5時間制 40分授業で生み出した時間の活用
- 外国語による異学年との交流学習
- 国際理解教育との関連
- 授業の英語を生きた英語へ
- 留学生との交流
- インドネシア学校との交流
- One Day 英語村 in Dendo
- 小中連携の英語教育
- 中学校体験授業
- 中学生の英語出前授業
- 低学年英語活動年間 20時間

**自分から学ぶ姿勢の確立**

- 既習事項を生かして、自己の学びを高めることができる資質・能力を育成する。
- 午前5時間制40分授業により生み出した時間を、既習事項を生かした学習環境の設定へ活用する。
- 既習事項を生かしたコミュニケーション活動を通して、新たな自己の学びを構築できるようにする。6年間を通して、達成感なく、自分から学ぶ姿勢の確立に向けての学びのスパイラルを形成していく。

**生活時間表**

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	865	925	980	1015	1015	1015
上回る時数	43 1/2	41	43	31	34	35 3/4
学校数	40	30	24	26	51	48
行事時数	65 1/2	61 1/2	56 1/2	63	85	86 1/4
総時数	1013	1062	1103	1136	1185	1185

# PDCAサイクル

**P計画**  
校長の学校経営ビジョンを基に、計画を立てます。

**D実施**  
40分授業午前5時間制を有効活用した教育活動を実施します。

**C評価**  
実施の内容について、評価を行うための評価指標と目標値を設定し、評価を行います。

**A改善**  
評価で把握した取組の成果や問題点を基に、改善策について協議します。

一単位時間を40分とし、創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について、全教職員で考えを共有し、学校組織力の向上と活性化につなげ、児童の学びや生活の質の向上を図るために作成されるのが、学校グランドデザインです。学校グランドデザインは、各学校独自のものであり、それぞれが特色ある教育課程を編成しています。具体例を紹介します。

## 田道小学校 「外国語教育」の充実 下目黒小学校 「総合的な学習の時間」の充実



田道小学校 下目黒小学校  
生み出した時間を活用して、「外国語科(外国語活動)」や「総合的な学習の時間」を充実させることができます。

## 宮前小学校 「行事時間」の確保



授業時数を十分確保した上で、学校行事を行うことができます。

## 令和2年度 目黒区立下目黒小学校 学校グランドデザイン

**Research:各種調査等による実態**

- 【学校の実態】14学級、児童数449名、教員19名
- 【児童の実態】区学力調査、四者評価
- 【保護者・地域の実態】保護者の意識、地域の状況
- 【40分授業-授業診断結果】基礎・基本の定着や学習の見直しを促すこと、板書を意識している教員が多い。
- 発展的な問題を取り入れることや自己評価に対する意識は高くない。

**校長の経営方針**

- 児童・保護者・地域・教職員等本校に開かれた「下目黒小学校」を創出する。
- 児童が主体的に学び、自ら考え、自ら行動する力を育てる。
- 「総合的な学習の時間」を充実させ、児童の学びを深める。
- 「新学習指導要領」が指す「資質・能力」の確かな育成
- 「自己肯定感、自己有用感の醸成」
- 「地域や社会とのつながりの強化」

**目指す児童像**

- 21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童
- よく考える子
- 自ら課題に取り組み、自分らの考えをもつとつ子。
- 既習内容や日常生活と結びつけながら考える。
- 健康で明るい子
- 前向きに物事に取り組む子。
- 規範正しい生活習慣が身に付いている。
- 思いやりのある子
- 誰とでも共に学ぶことができる。
- 相手の気持ちを考えた言動ができる。
- 最後までやり抜く子
- 学習習慣が身に付いている。
- 多量にでも投げかけず、最後まで取り組む。

## 40分授業午前5時間制を生かすPDCA

**一単位時間40分で学力保障するためのポイント**

- 学習指導
  - ・学習の構えづくり
  - ・「しもめ学習指導要領」の重視(導入工夫、ねらいの明確化、考えた「意見交換したりする時間の確保、児童自身による振り返り)。
- 生活指導
  - ・時間を守ることの徹底
  - ・自らの生活を振り返る場の設定
- 児童
  - ・体験的な活動やゲストティーチャーを生かした学習の重視
  - ・「しもめタイム(課題別学習)や午後60分授業の設定
- 教職員
  - ・過剰な工夫による授業研究や教材研究、研修、会議、教員間の連携等の時間確保

**総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを進め、探究的な学習の学び方を身に付ける**

**自分から学ぶ姿勢の確立**

- 課題設定から振り返りまで自らの学びをマネジメントする力を育成していくためには、ステップを踏んだ計画的・継続的な指導が必要である。
- そのため、今年度は、毎時間の授業においてねらいを明確にするともに児童自身が学習を振り返る場を必ず設ける。また、総合的な学習の時間の計画を見直し、発達段階に沿って探究的な学習の学び方を身に付けられるようになる。

**各教科に身に付ける資質・能力の育成**  
(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等)

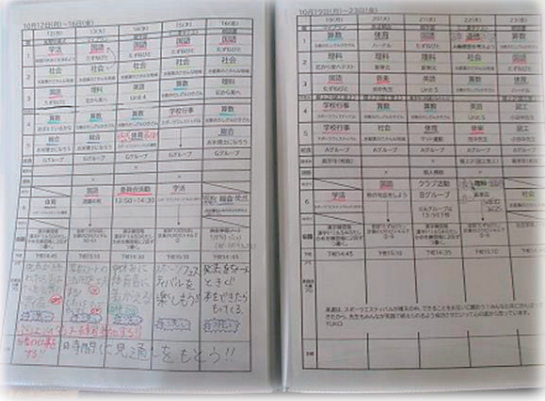
各学年の時数内訳 (6月1日以降)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	855	915	970	1005	1005	1005
上回る時数	35 1/2	40 1/2	46	41	39 1/2	36
学校数	12	7	7	7	7	17
行事時数	13 1/2	12 1/2	12 1/2	12 1/2	22	22
総時数	904	986	1028	1058	1066	1063

## 駒場小学校 「駒場ベーシック」 不動小学校 「不動タイム」 緑ヶ丘小学校 「朝の学習タイム」



基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの素地を育てることを目的に、朝の時間や昼の時間、下校前などに、学習の時間を設定しています。

# 中目黒小学校「マイプラン」



児童がタイム・マネジメントの力を身に付け、学習や生活の目標を明確にした学校生活を送ることができるように、先週の振り返りと今週の目標を立てる「マイプラン」に取り組んでいます。

## 令和2年度 目黒区立中目黒小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像
<b>【学校の実態】</b> 19学級 児童数596名 特別支援教室1 教員 32名(男10名、女22名) 主幹(3)主任(11)教諭(18) 平均年齢37歳 <b>【児童の実態】</b> (1)区学力調査 (2)四者評価 (3)体力調査	<b>基本方針</b> ○新型コロナウイルスの感染防止を踏まえた、新しい学校生活の様式を基本とした教育活動 ○年間指導計画の随時の見直しと家庭学習との連動 ○学校生活のフェーズを意識し、学校生活への適応から安定、充実から発展 <b>■午前5時間制のビジョン</b> ○時間を守って行動を徹底 ○8・27・5の時間配分を意識 ○ICTを活用した効率的な指導 ○多様なサイズの授業を展開	<b>【学校教育目標】</b> ○明るい子 ○考える子 ○たくましい子 ○思いやりのある子 <b>■確かな学力</b> ○自ら考え、粘り強く学ぶ子 ○豊かな心 ○思いやりをもち、友達を大切に子 ○健康かな体 ○自らの健康・安全を考えながら行動する子

### 40分授業午前5時間制を生かすPDCA

**指導の重点**

- 学習指導
  - ・主体的・対話的で深い学びを実践し、授業の質を高める
  - ・見通す場面、考える場面、振り返る場面を意識した指導
- 生活指導
  - ・マイプランの時間を活用し見通しを持った学習や生活
  - ・学級ごとの目標の振り返り
  - ・不登校、いじめ対応
- 午後の活用
  - 教職員・校内 OJT の計画的な実施
  - 木曜日:学年会、金曜日:生活指導夕会
  - 月曜日の午後に会議を集中
  - 若手研修会を実施

**改善検討組織**

- 研究推進委員会
- 生活指導部会
- 学年会・専科会

**計画**

- マイプラン
  - 【目的】児童のタイムマネジメントの力を育てる
  - ・学習や生活の目標を明確にした学校生活を送る
  - 【対象】対象学年から第6学年
  - 【時間】毎朝10分
  - 【内容】①教師が週の予定や留意点を説明  
②児童が自分の目標や努力事項を記入  
③活動を振り返る
- OJTの推進
  - 【目的】放課後の時間を有効活用した校内研修
  - ・相互の学び合いによる主体的・自主的な研修
  - 【方法】3~4名のグループ OJT の形式
  - ・グループで研究主題を設定し、年度末に発表会を行う
  - 【時間】午後3時から 40分間を活用
  - 【内容】授業改善に関連したテーマを設定
- 家庭学習との連携
  - 【目的】学習時間を有効に活用するため、新しい学習過程にもとづく効果的な指導を行う
  - ・校内での学習活動が制限されるため家庭学習との連携し学習活動の補完を行う
  - 【内容】家庭学習の成果の発表→課題解決のための交流→家庭学習課題の提示→家庭学習 という学習過程を必要に応じて試行する

**実施**

- 新しい生活様式を踏まえた対応
  - ①マイタイム・短時間学習の時間は授業時数としてカウントする(金曜日6校時)
  - ②マイプランの実践紹介を実施する
  - ③児童の振り返り(リフレクション)を給食時間に行う。
- 新しい生活様式を踏まえた対応
  - ①校内研究での研究授業を行わない
  - ②教員のニーズに応じた研究テーマを設定し進捗する
- 新しい生活様式を踏まえた対応
  - ①臨時休業時の対応を含め、児童が自学自習できる力を高める必要性
  - ②家庭の学習時間を確保し、有効な手立てを講じる必要性
  - ③家庭に学校の学習との連携の必要性を伝える

**自分から学ぶ姿勢の確立**

【午後の時程の特色】  
低学年:短時間学習(20分間)の設定  
中・高学年:80分授業の設定が可能

時	1	2	3	4	5	6
11:00-11:15	1	6	11	16	21	
11:15-11:30	2	7	12	17	22	
11:30-11:45	3	8	13	18	23	
11:45-12:00	4	9	14	19	24	
12:00-12:15	5	10	15	20	25	
12:15-12:30	6	11	16	21	26	
12:30-12:45	7	12	17	22	27	
12:45-13:00	8	13	18	23	28	
13:00-13:15	9	14	19	24	29	
13:15-13:30	10	15	20	25	30	
13:30-13:45	11	16	21	26	31	
13:45-14:00	12	17	22	27	32	
14:00-14:15	13	18	23	28	33	
14:15-14:30	14	19	24	29	34	
14:30-14:45	15	20	25	30	35	
14:45-15:00	16	21	26	31	36	
15:00-15:15	17	22	27	32	37	
15:15-15:30	18	23	28	33	38	
15:30-15:45	19	24	29	34	39	
15:45-16:00	20	25	30	35	40	

対象	評価指標	目標値					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童	区学力調査	各教科達成率平均値 80%以上					
	区意識調査	「授業はよく分かるか」肯定的回答平均値 90%以上					
	実態アンケート	「自分で学習が進められる」肯定的回答平均値 80%以上					
教員	授業診断	全項目 3.5 以上					
	実態アンケート	「OJT が生かされている」肯定的回答平均値 90%以上					
保護者	実態アンケート	「落ち着いた学習に取り組んでいる」肯定的回答平均値 80%以上					

# 中根小学校「授業力向上」



放課後の時間を活用して校内研修を充実させています。

## 令和2年度 目黒区立中根小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像
<b>研究開発アンケート(H31年度実施)</b> 児童(4・5・6年生対象) できている、おおよそできている(割合) ◎午前中の授業は、集中して取り組むことができているか ◎学校の学習のきまりを守っていますか ◎学校の生活のきまりを守っていますか ◎放課後は教材研究の時間等、有効活用できているか	教育の質の向上を図るため、PDCAサイクルを重視し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。 令和2年度研究開発学校(文部科学省)の指定をもち、午前5時間制の推進を図る。授業時数の一単位時間を40分とし、児童の学びや生活の質の向上と教員の働き方改革の推進及び、本校の実態に応じた創意工夫ある取組の実現を期す。	よく考えて実行しよう(確かな学力) ・目的意識をもち、主体的に問いや課題を探究することで、発展的な考えを生み出していく姿。 ・共に考えようとする態度をもった学習集団。 ・なかよかつくあわむ(豊かな心) ・他者理解、自己肯定感を高める集団の育成。 ・まず自分で考えよう(健やかな体) ・心と体を一体として捉え、体力向上と共に、基本的な生活習慣を身に付けた児童。

### 40分授業午前5時間制を生かすPDCA

**教員の授業力向上に向けて**

- ・異学年交換授業の計画・実施、各教科の専門性の向上
- ・各教科スタンダードの作成(中根のすめ)
- ・定期的な授業内評価の確認

**生活指導の徹底**

- ・「中根の子」(生活・学習のきまり)の周知・徹底
- ・スタンダードの確立→安定した学校生活
- ・1週間の時間割配付で見通しをもち、安定した生活・学習の確立

**学年主任会**

- ・各教科部会(評価部会)
- ・各主任会議
- ・研究推進委員会
- ・生活指導部会

**40分授業の組み立て**

・思考の時間を重視した時間配分  
・単元ごとで、どのような評価をするのか、視点と規準を明確に

**交換授業の充実**

・学級・学年を越えての交換授業を実施する。教員の専門性を生かし、教科指導の充実を図る。  
・教員が専門性をもつことで、6年間見通した体系的な指導を目指す。  
→カリネの実現  
・どの学年、どの学級でも学習のスタンダードの徹底をすることで、40分間の学習の流れの定着を図る。

**自分から学ぶ姿勢の確立**

・一週間の時間割配付により、見通しをもち、学習を進める。  
・家庭学習で、授業の予習となる内容に意図的に取り組ませ、自分の考えをもって授業に臨んだり、40分の授業で思考を深めたりできるようにする。  
・各教科の単元計画を立てる際、家庭学習の計画も併せて立てることで、学習の効果上げる。また、そのことを児童自身にも実感させることで、家庭学習の効果を高める。  
例:(社会)学習の流れを定着させた上で、小単元の学習のまとめを各自でさせる。  
→小単元同士の接続がスムーズで、次の小単元の学習期間配りの負担が軽減。(意図的な単元配付が必要)  
(国語)物語文の初読の感想や疑問、登場人物の人物を考えて、まとめる。  
→意見を出し合うところから授業が始められる。

**60分授業の組み立て(30分+30分、20分+40分)**

・専科授業を中心に、豊かな情操を育てる。  
・表現や活動の目的や学習効果を考え、教科や内容によって、時間配分を考える。

**校内研修の充実**

・学年会及び、低・中・高学年各部会の充実  
・放課後の時間を活用して、週一回、学習内容の進捗状況の確認、交換授業の確認。  
・中根塾の実施→若手教員の自主的研修の場。自分たちで課題を見つけ、その解決や探究のための方策を能動的に考える。  
・各教科部会→評価の観点を明確にし、定期的に評価物等の確認をする。

対象	評価指標	目標値					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童	区学力調査(学力)	各教科達成率平均値80%以上					
	区学力調査(意識)	学校の授業はよく分かりますか。肯定的回答平均値 90%以上					
教員	実態アンケート	自分の学習の調整について肯定的な回答 80%以上					
	常時授業参観振り返り	互いの授業を参観し、参観の観点に沿った相互評価を行う。					
交換授業	交換授業	参観後には、授業者と参観者で必ず振り返りを行う。(授業参観の視点)					

# 烏森小学校「異学年交流」



毎月1回、40分間の異学年交流を実施し、心の教育や第6学年のリーダーシップ育成に努めています。

# 油面小学校「関わりを深める時間」



特別支援学級との交流、話し合いを充実させる60分授業、学校行事の練習や生活指導にあてる等、多様な活動を可能にします。

# 向原小学校、原町小学校、上目黒小学校「放課後学習」



基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、個別に放課後学習を行っています。放課後の時間を活用し、児童に指導することで、個に合った課題に対応することも可能です。

# 単元デザインのポイント

例 第3学年 国語科(単元名: れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう)  
(教材名: 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」)

分	45分の場合の指導計画(45分×15時間扱い)	40分の場合の指導計画(40分×14時間扱い)	分
45	①「すがたをかえる大豆」を読み、学習計画を立てる。 <b>精選・統合</b>	①単元全体を概観し、「すがたをかえる大豆」を読んで、単元の学習計画を立てる。 <b>ポイント1・2・3</b>	60
45	②「はじめ」「中」「おわり」の役割や内容を捉える。	②「はじめ」「中」「おわり」の役割や内容を捉える。	40
45	③語句を調べ、「はじめ」の書かれ方について考える。	③④「中」を読み取り説明のしかたの工夫を見付け、「はじめ」の書かれ方について考える。	80
45	④「中」を読み取り、説明のしかたの工夫を見付ける。		
90	⑤⑥説明のしかたの工夫についてまとめ、他の食べ物について書かれた本を読み、感想を伝え合う。	⑤説明の工夫についてまとめる。	40
45	⑦「すがたをかえる大豆」の学習を振り返り、次時に向けて「科学読み物での調べ方」を確かめる。	⑥他の食べ物について書かれた本を読み、感想を伝え合う。	40
45	⑧「食べ物のひみつを教えます」を読み、作例で説明の工夫を確認し、今後の学習計画を立てる。	⑦「食べ物のひみつを教えます」を読み、学習計画を立て、調べたい材料を選ぶ。	40
90	⑨⑩調べたい材料を選び、調べ、内容を整理する。	⑧⑨「科学読み物での調べ方」を確かめ、資料を読んで調べ、内容を整理する。	80
45	⑪文章の組み立てや例の書き方を考える。	⑩文章の組み立てや例の書き方を考える。	40
90	⑫⑬表現を工夫して文章を書く。(下書き・推敲・清書)	⑪⑫表現を工夫して文章を書く。(下書き・推敲)	80
45	⑭文章を読み合い、感想やよいところを伝え合う。	⑬表現を工夫して文章を書く。(清書)	40
45	⑮単元の学習を振り返る。 <b>意図的な振り返り</b>	⑭文章を読み合い感想やよいところを伝え合い、単元の学習を振り返る。 <b>ポイント4</b>	60
計	675	600	計
※90分・80分の授業は2時間で一続きの内容であるが、1時間ずつに分けても扱える内容である。			

### ポイント1 既習学習の活用

・第3学年「言葉で遊ぼう」で初めて学習した「段落」の意味や働きを本教材の読解に活用する。「言葉で遊ぼう」を拡大して掲示し、「はじめ・中・おわり」の組み立てや、それぞれにどんな内容が書かれるかを確認する。既習の内容である「段落」の意味や働きの確認を簡潔に行うことで、児童の活動時間を十分に確保する。**他単元との関連**

### ポイント2 学習方式の定式化

・年間を通して「資料となる文を読む→資料に対する自分の考えをもち文章にまとめる→交流活動を行う」という流れを基本として単元計画を立てる。また、説明文や物語文を読んだら初発の感想を書く、形式段落に番号を振り「はじめ」「中」「おわり」に分けるなどを国語科の基本的な学習方法として繰り返し行う。これらにより、児童が学習の見通しをもちやすくなる。

### ポイント3 精選・統合

・40分授業と60分授業を効果的に組み合わせ柔軟な授業展開を行う。具体的には、45分授業では①「すがたをかえる大豆」の学習計画を立てる ⑧「食べ物のひみつを教えます」の学習計画を立てるで2時間取っているところを、40分授業では①「すがたをかえる大豆」の学習計画を立てるを60分扱いとし、単元全体(15時間)の大まかな見通しをもたせるようにした。

### ポイント4 意図的な振り返り

・学習の振り返りは毎時間行うのではなく、単元計画の中で必要なところに意図的に組み入れ、主となる学習活動時間を十分に確保する。具体的には、45分授業⑦の前半に扱う振り返りを省き、40分授業⑭で単元全体を通した学習の振り返りを行う。これにより生まれた時間を40分授業⑬の清書の時間とし、書く活動を十分に行えるようにした。

# 40分の授業デザインのポイント

(全14時間中の2時間目)

■目標 教材文を「はじめ」「中」「おわり」の構成で捉え、大まかな内容と役割を捉えることができる。

### 展開

導入10分	○主な学習活動 ・予想される児童の反応 ○重要語句を確認しながら、「すがたをかえる大豆」の全文を読む。 ○大豆からできた食品が、どの段階で出てきたかを読み取り、食品を縮小した写真の順序を考えてワークシートに貼る。	◆指導上の留意点 ※評価 ◆「いる」「ひく」「むす」など大豆の加工に関する言葉の意味を押さえる。 ◆写真を手がかりに、大豆からできた食品が出てきた順番を見付けさせる。(ワークシート)
展開20分	○本時のめあてを確かめる。 文章の組み立てについて考えよう。 ○全文を「はじめ」「中」「おわり」に分けるとすると、どのように分ければよいか考える。 ○自分の考えをグループで伝え合う。	◆「段落」の意味や働きについて、「言葉で遊ぼう」の拡大掲示で簡潔に確認する。 ◆「この説明文の「中」は、何段落から何段落までに書かれているでしょう。」「中」に注目させて考えさせる。 ◆3人組でワークシートの表を見せ合いながら、考えを伝え合わせる。話し合いのポイントを提示する。
まとめ10分	○全体交流を行い、確かめる。 ・「はじめ」には「毎日の食事で大豆がよく食べられていることが書かれています。」 ・「はじめ」には、大豆がどんなものかということが説明されています。 ・「中」には大豆をおいしく食べる工夫の例が書かれています。 ・「おわり」には、大豆がいろいろな食品になって食べられてきた理由が書いてあります。 ・「おわり」の「おどろかされます」は筆者の感想です。 (「中」の詳しい内容は次の時間に読み取る。)	◆実物投影機で、児童のワークシートを全体で共有しながら確認していく。 ◆ワークシートの表の「はじめ」「中」「おわり」の区切りに赤線を引かせる。 ◆「はじめ」には大豆の説明が、「中」には工夫の例が、「おわり」には多くの食べ方が考えられた理由がまとめとして書かれていることを押さえる。 ※「はじめ」「中」「おわり」の役割を捉え、各段落をまとまりに分けている。(発言・記述)

本時は、ワークシートを工夫し、児童が興味をもって学習に取り組み、「はじめ」「中」「終わり」について視覚的にも理解できるようにした。これらにより児童が40分で無理なくめあてを達成できるようになっている。

●ワークシートの工夫  
・本時は、段落の表(段落番号、「はじめ」「中」「おわり」、段落の中心となることなどを書き込めるもの)をワークシートにしたものと、食材を縮小した写真を児童に配布する。それらを手掛かりにすることで、視覚的にも段落の組み立てが理解できるようにする。

●掲示資料の工夫  
・学習計画や以前に学習した内容を掲示し、既習の学習内容や方法を踏まえた学習ができるようにする。

●個人での読みと交流活動の充実  
・読むときのポイントを提示し、めあてに沿った読み取りや話し合いができるようにする。

●ICT機器を用いたまとめの効率化  
・児童のワークシートを実物投影機で提示し、全体で共有しながら効率的にまとめを行う。

## 単元デザインのポイント

### 例 第6学年 国語科

（単元名：表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう）

（教材名：「鳥獣戯画」を読む 日本文化を発信しよう）

分	45分の場合の指導計画（45分×11時間扱い）	40分の場合の指導計画（40分×11時間扱い）	分
45	①課題を設定し学習の見通しをもつ。	①課題を設定し学習の見通しをもつ。 <b>ポイント1</b>	40
45	②筆者の『鳥獣戯画』の読み取り方を理解する。	②筆者の『鳥獣戯画』の読み取り方を理解する。	40
45	③筆者の「絵・絵巻物についての評価」を読み取る。	③筆者の「絵・絵巻物についての評価」を読み取る。	40
45	④筆者の、読者に伝えるための表現の工夫に気付く。	④筆者の、読者に伝えるための表現の工夫に気付く。	40
45	⑤著作権について理解を深める。	⑤著作権について理解を深める。 <b>ポイント1</b>	40
45	⑥日本文化についての本を選び、内容を読み取る。	⑥日本文化についての本を選び、内容を読み取る。	40
45	⑦グループでの <b>学習集団の組み換え</b> → パンフレットづくりの構想をたてる。	⑦ペアでの新聞づくりの構想をたてる。 <b>ポイント2・4</b>	60
45	⑧資料を集め適切な内容を選び、見出しを考える。	⑧新聞の割り付けを決め、役割分担をする。	60
45	⑨パンフレットの構成を考える。 役割分担をし、下書きをする。	⑨記事の内容に合う見出しを考え、下書きをする。 <b>ポイント3</b>	40
45	⑩パンフレットを仕上げる。	⑩掲示した新聞を見合い、学習の振り返りをする。	40
45	⑪冊子の交流や学習の振り返りをする。 <b>交流の仕方（成果物）</b> →		計
495			440

#### ポイント1 学習活動の活性化（付箋、実物投影機の活用）

- ・筆者の考えや表現の工夫などを読み取る学習では、付箋を使わせることで小さな気付きも大切に取り上げやすくする。また、児童の読み取りを交流させる場面では、積極的に実物投影機を使うことで、短時間で全員が明確に考えを把握し共有できるようにする。

#### ポイント2 一人ひとりを生かす学習集団の編成

- ・作品作りをグループではなくペアにすることで、短時間で話し合いを行う。

#### ポイント3 効果的な学習展開（割り付けカードの活用）

- ・新聞の構成を考えるとときには、割り付けカードを活用させることで、自由に試行錯誤しながらよりよい新聞へと練り上げることができるようにする。

#### ポイント4 主要な言語活動の変更（パンフレット⇒新聞）

- ・作品をパンフレットではなく新聞にして掲示することで、一目で全体を見ることができるため、互いにその良さや工夫などを交流しやすくなり、時間を有効に使うことができる。パンフレットについては、第4学年時の国語の学習で扱っている。また、「思い出を言葉に」の学習でまとめる際の一つの方法として例示することもできる。

## 40分の授業デザインのポイント

（全10時間中の4時間目）

■目標 筆者が、自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているか考える。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 5分	○本時の課題を確認する。	◆本時は、能率的に活動を進めるために、見つけた工夫を付箋に書いて台紙に貼ることを伝える。
展開 30分	○筆者の工夫をさがす。 T:「今日は本文から読者を惹きつけるための筆者の工夫をさがして付箋に見付けた表現を書き出しましょう。」 C:『「はっけよい、のこった。」という印象的な作品の解説文で書き出しているところに驚きました。」  ○さがした工夫をペアで紹介し合う。 C:『「…野ウサギ。…トノサマガエル。」とリズムよく書かれていることに〇〇さんは気が付いてすごいな。」 ○全体で筆者の工夫について発表し合う。	◆事前に工夫例を示し、探しやすいように促す。 ◆何度も読み返しながら、筆者の工夫をさがすように促す。その際に順序が前後した場合は付箋を移動するように伝えておく。 ※筆者の工夫を探して付箋に書いている。（付箋の貼ってある台紙） ◆ペアで交流したことで新たに気付いた重要だと思える工夫は付箋の色を変えて追加させる。 ◆いくつかのペアの工夫を紹介することで自分の考えと比較させる。
まとめ 5分	○筆者の工夫を調べて考えたことをまとめる。	※工夫することの良さについてノートにまとめようとしている。（ノート） ◆次時の予告をする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     筆者が、自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているか考えよう。                 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     筆者が書き出しの工夫、体言止め・短文によるリズム・語りかけるような書き方など様々な工夫をして、読者に「鳥獣戯画」の価値を伝えようとしている。                 </div>	



導入は、学習計画に基づいて短い時間で行う。そのため、前時のまとめで次時の学習内容を予告しておく。  
教材・教具を工夫することで、対話的な学びや深い学びを重視でき、時間も短縮できる。

●付箋の活用・モデルの提示  
・工夫例を示すことで、学習活動を円滑に進められるようにする。また、付箋を使うと、前後の順序を差し替えたり、不必要なものを省いたりすることもしやすくなり、時間を短縮できる。

●対話的な学びの視点  
・個人→ペア→全体と多様な学習活動を取り入れることで、筆者の多様な工夫に気付き、自分の考えを広め深めることができる。

●実物投影機の活用  
・全員で意見を共有するために、付箋の貼ってある台紙を実物投影機を使って紹介する。

●学習の過程や成果を振り返る時間の充実  
・1時間の学習において、課題に対する自分の考えをまとめることで、学習の成果を実感できる。



例 **第3学年 社会科** (単元名：目黒区のうつりかわり)

分	45分の場合の指導計画 (45分×10時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×10時間扱い)	分
45	① 学習問題作りと個人の予想	① 学習問題作りと学習計画の設定 <b>ポイント1</b>	60
45	② 個人の予想をもとに学級の学習計画の設定	学習問題 目黒区の町の様子や人々のくらしは、どのように変わっていったのだろうか。	
45	③ 区の行政区分の移り変わりの理解	② 人口の移り変わりの理解 (年表に記述)	40
45	④ 土地利用の移り変わりの理解 <b>ポイント3</b>	③ 行政区分の移り変わりの理解 (年表に記述)	40
45	⑤ 人口の移り変わりの理解	④ 土地利用の移り変わりの理解 (年表に記述)	40
45	⑥ 区の交通網の移り変わりの理解	⑤ 交通網の移り変わりの理解 (年表に記述)	40
45	⑦ 区の公共施設の移り変わりの理解	⑥ 公共施設の移り変わりの理解 (年表に記述)	40
45	⑧ 昔の道具の移り変わりの理解	⑦ 昔の暮らしについて実物資料等を用いて理解を深める。	80
45	⑨ 年表の作成など調べたことの整理	総合的な学習の時間 単元名「地域の一員として」の調査活動・体験活動。 昔の暮らしについて地域の方から聞き取り調査、昔の道具を地域の方と一緒に体験する。	
45	⑩ 学習問題に対するまとめ <b>ポイント2</b>	⑧ 学習問題に対するまとめ (年表完成)	60
計	<b>ポイント4</b>	学習問題のまとめ 目黒区は、人口の増加とともに交通機関が発達したり、土地の使われ方が変わったりして発達した。区民の願いをかなえるため、税金を使って様々な公共施設が建てられた。	計 400

**統合**：2つ以上の指導事項を1つにする **増加**：重点化、充実を図るために時数を増加

- ポイント1 習得させたい知識を学習問題づくりの資料として提示**  
・学習問題作り、学習問題に対する予想、学習計画の設定を1単位時間内に行う。60分授業とし、一連の活動の時間を確保する。
- ポイント2 総合的な学習の時間による地域学習と関連して体験的な学習の時間の確保**  
・総合的な学習の時間 単元名「地域の一員として」と関連させる。昔の暮らしや昔の道具について、地域の人から聞き取り調査や体験的な学習を行う時間を総合的な学習の時間で確保し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した単元デザインとなっている。
- ポイント3 学習問題の解決に向けて習得した知識を毎時間年表に整理**  
・年表の整理は、行政区分、土地利用、人口推移、交通、公共施設のそれぞれの学習時間内に行う。年表を書き足していくことで、習得した複数の知識を関連付けられると共に、まとめの時間の作業がコンパクトになり、習得した知識を基に、学習問題の解決を図る思考に時間を集中させる単元デザインとなっている。
- ポイント4 既習事項の活用**  
・教師が新たに指導する内容を縮減するために、既習単元の「目黒区のように」の学習で獲得した知識・技能を活用し、社会的な見方・考え方を働かせて主体的に学習する単元デザインとなっている。

(全8時間中の6時間目)

■目標 目黒区の公共施設の誕生について調べる活動を通して、人口の増加とともに、住民の必要とする様々な公共施設が整備されていったことを理解する。

■展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点
つかむ5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される児童の反応</li> <li>○本時の課題を確認する。 T:「今日は何を学習するのかな。」 C:「区内の公共施設。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□資料 ※評価</li> <li>◆学習計画を基に、スムーズに導入を行う。</li> <li>□区内の公共施設の写真</li> </ul>
調べる①15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>目黒区の公共施設は、いつごろ、どんな目的でできたのだろうか。</li> <li>○課題に対して予想をする。 C:「みんな戦後にできたと思う。」 C:「最近できたものもあるのかな。」 C:「欲しいという声が高まったんだ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「いつ」と「どんな目的で」の2つの視点で予想させるようにする。</li> <li>□周年記念誌</li> <li>◆地域の人口(児童数)の増加に伴って、校舎が増設されたり、設備が充実したりしたことに注目する。</li> </ul>
調べる②10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自校の歴史について調べる。 T:「小学校も公共施設ですね。私たちの学校は、いつ頃できたのでしょうか。」 C:「昭和27年に〇〇小ができた。」 C:「平成2年に体育館とプールと渡り廊下ができた。」</li> <li>○八雲中央図書館・区民ホール・めぐろ歴史資料館・公園等について調べる。 T:「他にどんな公共施設が、いつごろできたのか調べてみよう。」 C:「様々な公共施設ができています。」 C:「図書館と同じ建物にパーシモンホールがある。」 C:「目黒区に住む人が使いやすいようになっている。」 C:「人口が増えて、公共施設も増えている。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□副読本</li> <li>□目黒区サイト(歴史年表)・歴史資料館刊行物などの情報をまとめたもの 例.中央図書館 平成14年10月開館 約120万冊蔵書(平成29年) 蔵書数は年々増加している。</li> <li>□目黒区人口の推移</li> <li>◆施設は、住民(利用者)が使いやすいように改修、増築、新設等が行われていることに気付かせる。</li> <li>◆人口の推移と関連付けて資料を読む。</li> </ul>
まとめる10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめをする。</li> <li>目黒区では、税金を使って、住む人が利用しやすいように公共施設を整えていった。人口の増加とともに、生活をよりよくしたいという人々の思いが高まり、必要なものを、みんなで作っていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□目黒区の投資的経費等</li> <li>目黒区サイト「目黒区の概況の把握」</li> <li>◆目的から外れないように、公共施設の建設に税金が利用されているという最低限の情報だけにとどめる。</li> <li>※人口の増加とともに、住民の必要とする様々な公共施設が整備されていったことを理解している。(発言・ノート 知・技)</li> </ul>

本時では、複数の公共施設の用途や建てられた時期を調べる。扱う情報が多いため、必要に応じて、教師が情報を精選し、1つにまとめて、一覧できる資料を作成する。(施設名・写真・開設・開館年・施設情報等)このように、児童の実態に応じて、本時の目標を児童が達成するために必要な資料を調整し、作成することが40分授業をデザインする際に重要となる。

●**予想の記述のさせ方を示し、記述時間を縮減**

- いつ→〇〇ごろ
- どんな目的で→〇〇のため

などと文章化させず、視点に合う言葉をメモさせる程度にとどめて、短い時間で予想できるようにする。生み出された時間を調べる活動や話し合いに使う。

●**ノートのとり方の定着**

- 調べて分かったことは、
- ノートに箇条書きにさせる。
- めあて、調べたこと、調べたことから、めあての解決に向けて自分が考えたこと、友達の考え、まとめ、ふりかえりなど1時間の学習を構造的にノートに表現させる指導を継続し、見通しをもち、40分で問題解決が図られるようにする。

●**振り返りを含めたまとめ**

- まとめた後に、振り返りを表現させるのではなく、めあてに対して解決を図ったまとめに加え、まとめに対する自分の判断や、学習方法に対するふりかえりを合わせて書くことができるように指導する。

例 第6学年 社会科 (単元名：全国統一への動き)

分	45分の場合の指導計画 (45分×6時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×5時間扱い)	分
45	① 教科書や資料集から戦国の世の中になった経緯や当時の様子を調べ、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	① 長篠の戦いの様子から、戦国の世の中から全国統一されたことについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	40
45	② 長篠の戦いの絵図を読み取り、三人の武将の人物年表から、三人の武将によって、戦国の世の中がこの後どのように統一されていくのかを話し合う。	② 織田信長が行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を捉える。	40
45	③ 織田信長が行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を捉える。	③ 豊臣秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を捉える。	40
45	④ 豊臣秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を捉える。	④ 徳川家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を捉える。また、調べたことをまとめ、三人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、三人の武将を比較し、果たした役割を考え、表現する。	40
45	⑤ 徳川家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を捉える。また、調べたことをまとめ、三人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、三人の武将を比較し、果たした役割を考え、表現する。	⑤ 学習問題に対して自分の考えをまとめ、友達と考えを交流し、考えを深める。	40
計	270	計	200

**統合**：2つ以上の指導を合わせて1つにする

**ポイント1 効果的な資料の精選**

- 効果的なデジタル教科書の資料や動画資料を精選し、提示活用することで、社会的事象について児童に注目させたいポイントが時間内に見いだされるようにする。

**ポイント2 まとめに自分の変容を表現させる指導**

- まとめをノートに書く際に、「はじめ私の予想では～と思っていたけど、調べて話し合ったら〇〇でした。」というように1時間の学習をとおして変容した考えを書くことの指導を徹底する。授業冒頭のめあてに対する予想を書かせず時間を縮減する。

**ポイント3 学習計画の効率的な設定**

- 学習問題づくりの際の資料の読み取りから、気付いたことや疑問を教師が人物や軍事、経済などの視点別に整理することで、児童が学習計画を効率的に設定できるようにする。

(全5時間中の1時間目)

- 目標 長篠の戦いの様子に注目し、戦国の世の中から全国が統一されたことについて学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。

■展開

	○主な学習活動 C：予想される児童の反応	◆指導上の留意点 □資料 ※評価
つかむ5分	○本時の課題を確認する。  戦国の世の中は、どのような様子だったのだろうか。  ○資料を読み取り、なぜ、織田信長が勢いを増したのかを予想をする。 C：「はじめは勢力が小さかったのに急に勢いが出てきた。」 C：「なぜ、急に勢力が広がったのかな。」	□戦国武将勢力の変遷 (1534年～1590年) □デジタル教科書  ◆戦国武将勢力図資料では、武将の勢力変遷だけでなく、その時代の出来事にも注目させる。
調べる①15分	○長篠の戦いの絵図を読み取り、気付いたことをノートにまとめる。 C：「左側では、木の柵があり、鉄砲を構えている人がある。」 C：「右側は馬に乗っている人が多い。」 C：「右と左で戦い方が違うね。ということは・・・。」 T：「この戦い左側が織田軍 (徳川軍) 右側が武田軍です。どちらが勝利をおさめたのだろう。」 C：「織田軍だ。鉄砲の方が戦いは有利。」 C：「私も織田軍だと思う。武田軍は近づけなかったのではないかな。」 T：「鉄砲が戦いに有利なら、武田軍も鉄砲をたくさん用意すればよかったのでは。」 ○話し合いから調べたいことを整理する。 学習計画から学習問題づくりへ	◆資料から 「見て分かること」→「そこから考えられること」という視点で分けて整理する。まとめる。  ※長篠の戦いの様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。(発言、ノート)
調べる②10分	○学習問題に対する自分の予想を考える。 ○小グループで学習問題の予想を発表する。	※学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発言、行動観察、ノート)
まとめる10分	○学習のまとめをする。  (まとめ例) はじめは勢力図から織田信長が勢力を伸ばしていったのに驚いた。長篠の戦いで織田信長が大量の鉄砲をなぜ用意できたかという、おそらくお金はたくさんもっていたからだと思う。次回の学習では、織田信長が勢いを増した理由やなぜお金をもっていたのか学んでいきたい。	

動画視聴やデジタル教科書の活用により、限られた時間で教師がねらった問いが児童から生み出されるようにする。このことで問いや予想について考える時間、資料について話し合う時間を確保できるようにする。「織田軍だけでなく、武田軍も大量の鉄砲を用意すればよかったのでは。」という発問を用意することで、織田信長がなぜ、大量の鉄砲を用意できたのかという問いを児童がもち、解決に向けて次時以降の学習意欲につなげていくことをねらっている。

●効果的な資料の精選

- 効果的なデジタル教科書の資料や動画資料を精選し、提示活用することで、社会的事象について児童に注目させたいポイントが時間内に見いだされるようにする。

●学習計画の効率的な設定

- 学習問題づくりの際の資料の読み取りから、気付いたことや疑問を教師が人物や軍事、経済などの視点別に整理することで、児童が学習計画を効率的に設定できるようにする。

●まとめに自分の変容を表現させる指導

- まとめをノートに書く際に、「はじめ私の予想では～と思っていたけど、調べて話し合ったら〇〇でした。」というように1時間の学習をとおして変容した考えを書くことの指導を徹底する。授業冒頭のめあてに対する予想を書かせず時間を縮減する。

## 単元デザインのポイント

例 第3学年 算数科 (単元名: 同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう) **ポイント1**

分	45分の場合の指導計画 (45分×9時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×9時間扱い)	分
45	①②除法に関する用語及び記号の理解	①②除法に関する用語及び記号の理解	80
45	等分除の意味の理解	等分除の意味の理解	
45	③ 等分除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	③ 等分除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	40
45	④ 包含除の場面も除法の式に表せられることの理解	④ 等分除と包含除を「わり算」として統合的にとらえ、包含除の場面も除法の式に表せられることの理解	40
45	⑤ 包含除の意味の理解	⑤ 等分除と包含除を「わり算」として統合的にとらえた、包含除の場面の数量関係の立式	40
45	⑥ 包含除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	⑥ 包含除についての理解を深め、計算問題に取り組む。	40
45	⑦ 等分除と包含除を「わり算」として統合的に捉え、除ホウケイ酸の答えを求める。	⑦ 除法の式から、等分除・包含除それぞれの問題を作る。	40
45	⑧ 被除数が0の場合及び被除数と除数が同じ数の場合の除法の理解	⑧ 被除数が0の場合及び被除数と除数が同じ数の場合の除法の理解	40
45	⑨ 学習問題に対するまとめ	⑨ 学習問題に対するまとめ	40
計	405	360	計

**統合**: 2つ以上のものを合わせて1つにする **分割**: 学習内容を分ける **焦点化**: 本単元計画の重点

### ポイント1 自己調整学習の力の育成

・毎時間、授業の導入部にICTや黒板掲示を用いて、課題把握、自力解決、発表及び検討等という1時間の授業の流れを視覚的に示し、見通しを児童にもたせることで自己調整学習の力を育てる。

### ポイント2 単元の導入、問題解決をする学習は、60分の学習を設定

・単元の導入では、児童自身に単元を貫く目標設定をさせるために、60分から80分の時間が必要であると考えられる。

### ポイント3 既習事項との関連付け

・第4時から包含除を学習する際、既習である等分除と毎回、意識的に比較したり関連付けたりしながら学習を進める。3時間かけて包含除について学びながら、等分除も包含除も「わり算」として統合していく方が、児童にとって自然と「わり算」を理解でき、また、効率的であると考えられる。

### ポイント4 式から問題を作り、数学的な見方・考え方を養う

・指導書の指導計画第7時の内容で、教科書の練習問題である「式から問題を作る」を焦点化し、本指導計画では一時間扱いとする。式から場面を考え、問題作りをする活動を通して、わり算の理解をより深めるとともに、数学的な見方・考え方を養う。

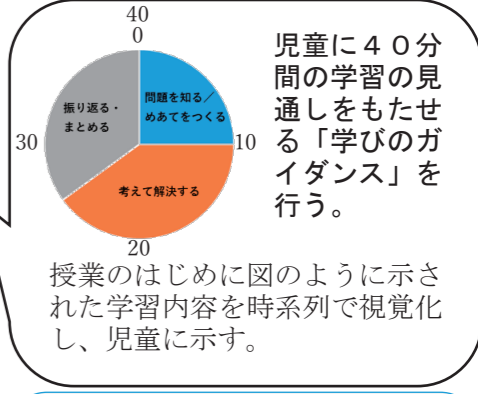
## 40分の授業デザインのポイント

(全9時間中の7時間目)

■目標 等分除と包含除の問題作りを通して、わり算の理解を深める。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
問題の理解	○本時の展開について見通しをもつ ○第1時と第4時の問題・図・式・答えの見付け方・答えを振り返る。	◆第1時と第4時の問題・図・式・答えの求め方・答えを黒板に並べ、児童が見比べやすいようにする。
10分	10÷5のオリジナル問題を2種類作ろう。	
問題の解決	○見通しをもつ ・5人で分けるか、5個ずつ分けるかの違いだ。 ・10を何にしようかな。猫・犬・飴・クッキー・リボン… ・分けるといっても、5人になるのか、5袋になるのか、5箱になるのか場面を設定しよう。	◆提示している12÷3=4の問題を場面と数値を変えれば2種類の問題が作れることに気付かせる。 ◆児童の実態に応じ1、2問全体で例として作ってみてから個人で考えさせる。
20分	○10÷5の問題を2種類作る。 ・色紙が10枚あります。5人で同じ数ずつ分けると、1人分は何枚になりますか。 ・色紙が10枚あります。1人に5枚ずつ分けると何人に配ることができますか。	◆ノートを見開きで使い、(または、画用紙を配り半分に折り)左右にそれぞれ1つ分、いくつ分の問題を書かせる。 ◆黒板に並べている12÷3=4の場合のように、問題・図・式・答えの見付け方・答えを左右の位置をあわせてかくことを理解させる。 ※2種類のオリジナル問題を作ることができる。問題を絵(図)に正しく書くことができる。(ノート 思・判・表)
解決のふりかえり・まとめ	○学習感想を書く。 ・同じ式でも2種類の違う問題が作れることが分かった。 ・いくつ分と一つ分など、異なる問題でも、問題文を式に表せば九九を使って答えを出すことができる。ただし、答えの単位に気を付けなければいけないと思った。	◆等分除と包含除は図やかけ算に表した時の□の位置は違うが、「わり算」として一旦式に表してしまえばわる数の段の九九で答えを求められることができると統合的に捉えられるよう振り返る。 ※等分除と包含除の同異について感想を書いている。(ノート 思・判・表)
10分	・1つのわり算の式から、1つ分を求める場面と、いくつ分を求める場面の問題を作ることができる。 ・1つ分を求める場面もいくつ分を求める場面もどちらもわり算の式で表せる。	



●既習事項と関連付け  
・第1時と第4時の導入の問題場面を同じにすることにより、本時の導入がよりスムーズになる。また、等分除を「1つ分を求める問題」包含除を「いくつ分を求める問題」など、クラスでネーミングしておく。

●式を読み取ることの重視  
・算数科において主体的・対話的な学びをするためには式を通して対話できる力が必要不可欠である。その力を身に付けるためには、式から具体場面を考えたり、式と図を対応する力を身に付けたりする必要がある。

●問題文を絵(図)とすることにより、包含除と等分除の違いを明確化

●学習の過程や成果を振り返る時間の充実  
・1時間の学習の中で、今まで漠然と分かった気であったものが確実な理解へと深まったことを意識させる。  
・学習感想を書かせることにより、それを実感させ、真のまとめとする。  
・質の高い「新たな宿題」として、家庭学習の時間で「学びの振り返り」を計画的に行う。一人一台の情報端末を効果的に活用することで、これまでの授業デザインを見直す。

# 単元デザインのポイント

## 例 第6学年 算数科 (単元名: 拡大図と縮図)

分	45分の場合の指導計画 (45分×8時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×9時間扱い)	分
45	① 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、合同な図形の意味を基に、拡大図、縮図の意味・性質の理解	① 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、合同な図形の意味を基に、拡大図、縮図の意味・性質の理解	60
45	② 拡大図、縮図の弁別	② 拡大図、縮図の弁別	40
45	③ 合同な図形のかき方を基に、1辺を基にした拡大図をかく。	③ 合同な三角形のかき方を基にした拡大図や縮図、1つの点を中心とした三角形の拡大図、縮図をかく。	40
45	④ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、三角形や多角形の1つの点を中心とした拡大図、縮図をかく。	④ 1つの点を中心として多角形の2倍の拡大図、2分の1の縮図をかく。	40
45	⑤ 既習の基本図形を拡大図、縮図の観点で分類	⑤ 既習の基本図形を拡大図、縮図の観点で分類する。	40
45	⑥ 縮尺の意味と表し方を知り、実際の長さを求める。	⑥ 縮尺の意味と表し方を知り、実際の長さを求める。	40
45	⑦ 縮図を活用して実際の長さを求める。	⑦ 縮図を活用して実際の長さを求める。	40
45	⑧ 学習問題に対するまとめ	⑧ 学習問題に対するまとめ	60
計	360	計	360

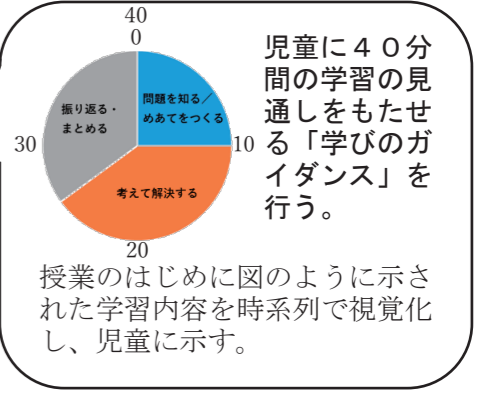
**統合**: 2つ以上のものを合わせて1つにする **分割**: 学習内容を分ける **増加**: 学習内容を増やす

- ポイント1 自己調整学習の力の育成**
  - ・1時間の学習活動の中で、課題把握、自力解決、発表及び検討という見通しを児童にもたせ、自己調整学習の力を育てる。
- ポイント2 単元の導入、問題解決をする学習は、60分の学習を設定**
  - ・単元の導入では、児童自身に単元を貫く目標設定をさせるために、60分から80分の時間が必要であると考える。また、第7時のように、40分+20分の学習を設定し、児童が屋外に出て実際に計測して作図をし、その縮図を活用して校舎の高さを求める学習を取り入れる。
- ポイント3 三角形のかき方を自由に考える場面を設定**
  - ・第3時では、第5学年で学習した合同な三角形を基にした作図だけでなく、1つの点を中心とした三角形の作図など、自分の考えをまとめ、説明することができるようにする。
- ポイント4 知識・技能を確実に習得**
  - ・第4時では、1つの点を中心とした多角形の拡大図・縮図について、丁寧に手順を確認し、確実にかくことができるようにする。

# 40分の授業デザインのポイント

(全8時間中の3時間目)  
**目標** 辺の長さや角の大きさを用いた拡大図・縮図のかき方を考え説明することができる。  
**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
問題の理解 10分	○合同な図形のかき方を基にして、三角形の拡大図のかき方を考えよう。 ○合同な三角形のかき方を振り返る。 ・3つの方法があった。 ・拡大図でも使えそうだ。 ○三角形ABCを2倍に拡大した三角形DEFのかき方を考えよう。 ・3つの辺の長さを2倍にすればかけるぞ。 ・辺の長さは2倍でも角度は変わらないね。	◆思いつかない児童には、合同な三角形のかき方を参考にできるように助言する。 ◆1つの方法でかくことができたら別の方法も考えさせる。 ※合同な三角形のかき方を基にして、かき方を考えている。(ノート 思・判・表)
問題の解決 20分	○友達と自分の考えを発表し合う。 ○全体で発表し、1辺を基にしたかき方(3通り)、1つの点を基にしたかき方(1通り)を共有する。	◆1つの点を基にしたかき方が児童の考えの中に入らない場合は、教師から紹介する。 ◆①3辺の長さ②2辺の長さと間の角の大きさ③2つの角の大きさと間の辺の長さ④1つの点を中心にする方法を分類する。
解決の振り返り・まとめ 10分	○1通りの方法で拡大図をかく。 ・1つの点を中心にするやり方が簡単だね。 ○学習感想を書く。	◆早くできた児童には、3倍の拡大図、2分の1の縮図をかかせる。 ◆P97のⅢの四角形の拡大図にも挑戦させる。 ※図形を構成する要素及び図形間の関係に着目して、三角形の拡大図をかくことができている。(ノート 知・技)



**自由に試行錯誤する場面の設定**

- ・第5学年で学習した合同な三角形のかき方を基にした拡大図や縮図のかき方、1つの点を中心とした三角形の拡大図、縮図のかき方を限定せずに自由に考えさせ、説明させる。

**既習事項と関連付け**

- ・第5学年で学習した合同な三角形のかき方を振り返るために、巻末資料「ふりかえりコーナー」P247合同な三角形のかき方を参考にしてもよい。

**時間の確保**

- ・既習事項を基に、試行錯誤を重ね、解決法を見いだすための時間、自分の考えをまとめ、説明するための時間を十分に確保する。

**知識の確実な習得**

- ・本時は、拡大図・縮図のかき方を分類し、4つの方法を確実に押さえ、1つの方法だけ全員で試し、確認する。
- ・残りの方法については、次時(第4時)に十分な時間を確保して、作図をし、技能を確実に習得させる。

**学習の過程や成果を振り返る時間の充実**

- ・質の高い「新たな宿題」として、家庭学習の時間で「学びの振り返り」を計画的に行う。一人一台の情報端末を効果的に活用することで、これまでの授業デザインを見直す。

## 単元デザインのポイント

### 例 第3学年 理科 (単元名: 風やゴムで動かそう)

分	45分の場合の指導計画 (45分×8時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×8時間扱い)	分
45	①風にはものを動かすことがあることを体感し、問題を見いだす。	①風にはものを動かすことがあることを体感し、問題を見いだす。 <b>ポイント1</b>	40
90	②③送風機を用いて車に風を当て、風の強さを変えた時の動く距離の違いを調べる。	②③送風機を用いて車に風を当て、風の強さを変えた時の動く距離の違いを調べる。	80
45	④風の働きについて考え、風の強さの違いによる物の動き方の違いをまとめる。	④風の働きについてまとめる。 ゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合い、ゴムを伸ばす長さに着目し、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。	40
45	⑤ゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合い、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。	⑤⑥ゴムの長さを変えた時の車の動く距離の違いについて調べ、ゴムの働きについてまとめる。	80
90	⑥⑦ゴムの長さを変えた時の車の動く距離の違いについて調べる。	⑦⑧風やゴムの働きについて学んだことをまとめ、風やゴムはたらきを活用したおもちゃ作りを行う。	80
45	⑧ゴムの働きについて考え、ゴムを伸ばす長さの違いによるもの動き方の違いを調べ、学んだことをまとめる。		
計			計
360			320

#### ポイント1 問題づくりの工夫

・風とゴムのはたらきについて、比較しながら学習を進めていくことで、児童が問題作りの視点をもてるようにする。第1時では、風のはたらきを感じられるような体験的な活動を取り入れ、問題を見いだせるようにしていく。また4時においても、風のはたらきとゴムのはたらきを比較しながら、ゴムのはたらきを感じられるような体験を取り入れるようにしていく。このような学習を展開することで、時間を短縮するとともに、児童に量的・関係的な見方が身に付くようにしていく。

#### ポイント2 実験を円滑に行うための工夫

・手順(問題⇒予想⇒実験方法⇒結果)を丁寧に確認しながら、実験を行うようにする。また、グループの実験結果から全体でグラフを作成して共有し、考察するようにしていく。これらの活動を生かし、第5・6時で実験を行うことで、円滑に学習を進め、時間を短縮するようにしていく。またICTを活用して実験結果を表すことで、教師の負担を軽減させるとともに、児童が全体の実験結果を表現しやすいように工夫する。

#### ポイント3 「深い学び」の工夫

・風とゴムの働きについてまとめる時間に加え、第7・8時におもちゃ作りを行う。風とゴムの働きを活用したおもちゃ作りをおこなうことで、「深い」学びになるようにしていく。

## 40分の授業デザインのポイント

(全8時間中の4時間目)

■目標 ゴムの力を体感し、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
事象との出会 15分	○前時までの学習を想起し、風の働きについて確認する。  ○輪ゴムを伸ばしたりねじったりしてゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合う。 T:「風の働きとゴムのはたらきを比べて考えてみよう。」 C:「ゴムは伸ばすと元に戻ろうとするよ。」 C:「ゴムも風と同じように、たくさん伸ばすほど戻ろうとする手応えが大きくなるよ。」	◆風の働きについて前時でまとめたものを提示し、風の働きとゴムの働きを比較して、考えられるようにする。 ◆輪ゴムを伸ばして手応えを感じる時間を十分にとる。 ◆ゴムを伸ばしすぎたり、急に手を離したりしないように安全に留意させる。
問題を見 15分	○ゴムのはたらきを使うと、車はどのような変化をするか考え問題を見いだす。 C:「ゴムをひいたら力が強くなったから、ゴムをたくさん伸ばせば、車は遠くへ動くと思うよ。」 C:「風と同じように、引く距離が大きければたくさん車は動くんじゃないかな。」	◆なぜそう思ったのか、根拠をもって考えるように支援を行う。 ※ゴムを伸ばす長さや本数を変えたときの車の動きについて、友達と互いに考えを伝え合いながら、問題を見いだすことができる。(発言・ノート 思・判・表現)
実験方法 10分	○ゴムを用いて実際に車を動かす活動を取り入れ、ゴムのはたらきを調べるための実験方法を考える。 T:「ゴムのはたらきを調べるためには、どうしたらいいと思いますか。」 C:「風のはたらきの時は、板を立てたよ。ゴムのときは、フックを使ってゴムをひっかければいいんじゃないかな。」 C:「ゴムが伸ばした長さが分かるように、ものさしで測ろう。」	◆児童の主体的な学びになるように、実験方法を全体で話し合うようにしていく。 ◆実験方法を全体で相談しながら考えることで、児童の主体的な学習につながるようにする。 ◆ゴム伸ばした長さを図ることを確認し、量的・関係的な見方ができるようにする。

本時は、前時までに行った風の働きに関する学習を活用することで、主体的な学びの時間を確保できるデザインとなっている。

#### ●主体的・対話的な学びの視点

・輪ゴムを伸ばして手応えを体感する時間を十分に確保することで、自ら問題を解決しようとする意欲をもてるようにする。また、その際に、手ごたえの違いについて気付いたことを発表させ全体で共有することで、ゴムを引く長さや手応えについて量的・関係的な見方を働かせるようにする。

#### ●風の働きとゴムの働きを比較して考察

・風の働きを調べた学習を想起させることで、風の働きをとゴムの働きを比較しながら問題を見いだすことができる。

ゴムの伸ばす長さを変えると、物を動かすはたらきはどのように変わるのだろうか。

## 単元デザインのポイント

### 例 第6学年 理科 (単元名: 電気の利用)

分	45分の場合の指導計画 (45分×13時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×13時間扱い)	分
45	①町の様子の絵を見て、電気はどのように作られたり、利用されたりしているか考え、電気と暮らしの関わりについて問題を見いだす。	①②乾電池につないだ電気がどのようなもの利用されているか考える。(光、音、運動など)	80
45	②手回し発電機や光電池で電気をつくり、作った電気を利用する。手回し発電機や光電池を使うと発電できることをまとめる。	③④手回し発電機や光電池でつくった電気が乾電池の電気と同じような働きをするのか様々な素子につなぎ調べる。結果を基に話し合う。	80
90	③④コンデンサーなどを使うと、蓄電できることを知る。コンデンサーに電気をため、ためた電気を何に変えて利用できか調べる。実験結果を基に、電気は、光、音、運動などに変えて利用できることをまとめる。	⑤⑥コンデンサーにためた電気が乾電池の電気と同じような働きをするのか様々な素子につなぎ調べる。結果を基に話し合う。	80
90	⑤⑥電熱線に電流を流すと発熱するかどうか、発砲ポリスチレンを使って調べ、まとめる。豆電球と発光ダイオードの特長を捉える。	⑦⑧電気を使って働く素子の電気を使う量の違いについて、いろいろな方法で調べ、結果を基に話し合う。	80
45	⑦電気を効率的に使うために工夫について考え、まとめる。	⑨電気を効率的に使うために工夫について考え、まとめる。	40
135	⑧⑨⑩人が近付くと明かりがつき、しばらくすると消えるプログラミングを作り、明かりをつけたり、消したりする。どれだけ電気を効率的に使うことができたか計測する。	⑩⑪人が近付くと明かりがつき、しばらくすると消えるプログラムを作り、明かりをつけたり、消したりする。どれだけ電気を効率的に使うことができたか計測する。	80
90	⑪⑫これまでに学んだことを生かして、電気を利用したものを作る。	⑫これまでに学んだことを生かして、電気を利用したものを作る。	40
45	⑬電気の働きや利用について、学んだことをまとめる。	⑬電気の働きや利用について、学んだことをまとめる。	40
計			計
585			520

#### ポイント1 「考察」場面の時間の確保

・第6学年の問題解決の力として重要な「結果から妥当な考えを作り出す力」を育成するために、問題解決の過程の「考察」場面に十分時間を設定するような単元デザインになっている。(①～⑧)

#### ポイント2 多面的な思考につなげるための導入時の工夫

・電気の「変換」について単元の始めに押さえることで、発電・蓄電でも多様な実験方法を実施することができ、多面的な思考を養うことができる。

#### ポイント3 他教科との関連による学習活動の削減

・総合的な学習の時間でプログラミング体験と関連付けることで、プログラミングの処理の仕方や仕組みを知る時間を削減する。他教科との関連

#### ポイント4 意図的な振り返りの時間の設定

・「発電・蓄電」の実験後に振り返りの時間を設定し、気づきや疑問を整理することで、⑤素子の電気をを使う量の違いについての問題につなげる。

## 40分の授業デザインのポイント

(全13時間中の8時間目)

■目標 電気ではたらくもの(素子)の電気の使われる量の違いについて、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。

#### ■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
実験・結果の整理 22分	○実験をする。 ・一定量コンデンサーに電気をためる。(手回しは発電機30回) ・電気をためたコンデンサーにLED、豆電球、電子オルゴール、モーターをつなぎ、それぞれの作業時間の違いを調べる。	◆実験前に問題を確認する。また、コンデンサーに電気をためる前に忘れずに、ショートさせることを確認し、正確に実験を行わせる。
考察・結論の導出 13分	○班で結論をまとめ、考察する。 C:作業時間がモーターが○秒、豆電球が○秒、LEDが○秒、電子オルゴールが○秒で(結果のとおり)作業時間がどれもばらつきが大きく、違いがあることから、素子によって電気の使われる量は違うことが分かる。この結果はどの班も数値のばらつきはあるものの、同じ傾向があるため信頼できるものである。予想と違い、モーターや豆電球の使われる電気の量が多く、LEDや電子オルゴールの使われる電気の量が少ないことが分かった。	◆考察のポイントを確認させる。 ①他の班の結果と自分たちの結果を比べて妥当性を検討する。 ②複数の班の実験結果から妥当な結論を考える。 ※電気ではたらくもの(素子)の電気の使われる量の違いについて、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて、より妥当な考えを表現している。(発言・ノート 思・判・表)
振り返り 5分	○振り返りをして、交流する。 C:LEDが最近増えてきたのは電気をを使う量が少ないからだ。省エネということが分かった。 C:LEDと豆電球で明るさはあまり変わらないが、LEDの方が長時間光っているのはなぜだろう。豆電球の熱が関係しているのかもしれない。	◆ホワイトボードに班(小集団)での結論を記入し、学級全体で共有する。 ◆班(小集団)での結論が違う場合、結論を導いた根拠や理由(結果のどの部分に着目して、どのように解釈したか)を視点を話し合いをする。 ◆今回の結果はあくまで、理科室で扱った「モーター」「LED」「電子オルゴール」の使用する電気の量であることを確認しつつ、「LED」と「豆電球」の明るさが同じくらいだが、点灯時間が大きく違うという児童の気づきを学級全体で取り上げ、共有する。(第1時の豆電球の発熱に關係付ける)

本時は、前時と2時間連続の学習となっており、児童が問題意識と見通しをもってスムーズに学習に取り組めるため導入がいらず、その分の時間を「考察する」時間にあてることで、本時のめあてが達成しやすいデザインとなっている。

#### ●学級で班の結果を共有

・自分の班と他の班の結果を共有しやすいように、実験結果をグラフや表に班ごとに示し、多面的に考えるための一つに手だてとして共有をする。

#### ●主体的な学びの視点

・児童に考察のポイントを示した資料を参考にさせることで、考え方・書き方などを自ら見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。

#### ●振り返りの時間の充実

・結論を予想と比較したり、日常生活や既習と関連付けたりすることで深い学びにつなげる。また、新しい疑問を整理し、学級で共有し次時の問題の設定をすることで、次時の導入がスムーズになるようにする。